

海外放浪の旅の果て 公認会計士の 資格取得を決意

ソフトバンクの監査役に就任したのは、1989年のこと。以降、デジタルアーツ、カスミ、テイクアンドグヴ・ニーズ、共立印刷、ぼど、といった錚々たる企業の監査役を務めているのが、四谷パートナーズ会計事務所の窪川氏だ。

公認会計士第二次試験に合格したのは76年、23歳の時。資格取得を目指したのは、意外な理由だった。

「高校時代から、海外に憧れていましたね。大学1年を終えると、半年ほどニューヨークの日本レストランでアルバイト生活を体験しました」

異国の地で一人。その経験は、何をしても生きていけるという自信につながったという。

「それから、さらに半年間。ロンドンを拠点にヨーロッパ放浪の旅を楽しんで帰国すると、かつての同級生は3年生になっている。そしてゼミの説明会で、経済誌を小脇に抱えた彼らが話し始めたのを見て、『このまま大学を卒業して就職しても、彼らの後輩で終わるんだろうな』と思ったのです」

この時、頭の中に浮かんだのが、何か専門知識を身に付けて、プロフェッ



四谷パートナーズ会計事務所
代表パートナー
窪川 秀一 ●58歳
Hidetaka Kubokawa

Story of the Entrepreneur 会計業界の起・業・人 vol. 13

取材・文/上阪 徹 撮影/大平晋也

パートナーシップによる
会計人の専門家集団。
「自立と共生」を旗印に
さらなる進化を目指す

ショナルになることだった。

「子供の頃から計算は得意でしたからね。会計士かな、と。それで専門学校に入ると偶然にも、中学・高校時代の友人二人と再会。三人で勉強合宿をし

たり、飲みに行ったりして、一緒にスランプを乗り切りました」

その甲斐あって、第二次試験には三人そろって合格。窪川氏は、監査法人中央会計事務所に入所した。

「この監査法人は、上場支援や業績評価システム構築などの経営コンサルテーションを行う子会社を持っていましたね。3年間の監査実務を経て第三次試験に合格すると、監査とコンサルティ

ングの仕事を兼務することになったのです。ところが、コンサルティンクに行く」と「こんなことも知らないのか」と揶揄されることもしばしば。コンサルティンク業務に対応するための知識を得ようと必死で勉強しました」

だが、それから4年後。再び監査業務に専念するようになると、窪川氏の心に変化が起きた。

顧客ゼロからスタート。 FP業務を柱に 顧客の幅を広げる

「監査法人では、ソフトバンクの任意監査で現場主査を担当するチャンスにも恵まれました。けれど何となく、監査業務も、組織の一員として働くというよりも、性に合わない気がして……。入所10年目、33歳で独立しました」

折しも、その1年前に受験仲間の人々が独立していた。彼のオフィスに間借りして、顧客ゼロからのスタート。同業との差別化を図るためにも、何かウリが欲しかった。

「そこで、株式や不動産について幅広い見識を持つ、ファイナンシャル・プランナー(FP)として、中小企業の経営計画や事業承継の相談にのってほしい」と、証券アナリストと不動産鑑定士の資格試験にチャレンジ。残念ながら、不動産鑑定士試験は2年連続で

不合格でしたが、証券アナリスト試験には一発で合格しました」

今でこそ、当たり前に使われるFPという言葉も、87年当時の日本ではその存在すら知られていない時代。さらに開業2年目には、多額の費用を投じて事業承継と経営計画のシミュレーションシステムを導入し、サービス向上に力を注いだ。

「新たな挑戦を続ける中で、多くのことを学びました。例えば、事業の全責任を背負っている中小企業の経営者は、数字に関してとてもシビアだし、商売上手。そんな働き方や生き方はとても

刺激的で、大手企業相手の仕事とは違う面白さややりがいを感じました」

どんな相手や仕事でも独自の魅力を見出し、全力で仕事に取り組む姿勢は、クライアントからも高く評価された。独立から3年後、ソフトバンクの監査役に選任されたことも、その証だ。

そんな窪川氏は、事務所の運営面でも独自の工夫やチャレンジを続けてきている。例えば、仕事や人との出会いを通じて学んだこと、日々考えていることなどを綴り、所員に配信していたウィークリーレポートは、90年の発行から14年間で700回にも及んだ。ま

た2000年には、所内税理士とのパートナーシップによる専門家集団を目指し、「窪川公認会計士事務所」から「窪川パートナーズ会計事務所」に名称を変更。それぞれの裁量で仕事に取り組みんでいく体制を確立させた。

「多様な価値観を持つ経営者や会計士と接する中、自分はどうな事務所を作りたいのかと考えました。そして、代表が采配を取るオーケストラ型ではなく、小規模でも自立したプロフェッショナルがそれぞれの能力を発揮できる、ジャズバンド型の組織を目指したいと思う自分に気づいたので」

実際にそうすることで、以前に増してパートナーとの信頼関係が深まり、時間や気持ちにも余裕ができたという。そこで挑んだのがMBAの取得だった。「ソフトバンクの役員会で、孫社長や役員の方たちの議論を聞いていて、自分のビジネスに対する見識や英語力の乏しさを痛感するようになりまして……。悪戦苦闘の末、50歳にしてオーストラリアのボンド大学大学院でMBAを取得することができました」

今後も様々なことにチャレンジしていきたいながら、自分らしくあり続けたいと語る窪川氏。この11年には、「自立と共生」を旗印に掲げ、「四谷パートナーズ会計事務所」に名称を変更。さらなる進化の継続を自分自身に誓った。



Profile

1953年2月20日 東京都生まれ
1976年3月 慶應義塾大学経済学部卒業
1976年10月 公認会計士二次試験合格
監査法人中央会計事務所入所
1980年8月 公認会計士登録
1986年7月 窪川公認会計士事務所開業
2000年1月 窪川パートナーズ会計事務所名称変更
2004年12月 ボンド大学大学院経営修士(MBA)課程修了
2011年1月 四谷パートナーズ会計事務所名称変更
家族構成=妻と娘1人